

普及活動情勢報告（令和8年5月分）

高吾農業改良普及所

土着天敵を活用したIPM技術の推進 ～雨よけピーマン天敵採取・放飼～



クレオメの茎の採集

5月11日、佐川町と越知町の生産者2戸が、土佐市の促成ピーマンハウスを訪れ、タバコカスミカメとそれが定着しているクレオメの茎を採取して、速やかに各自のピーマンハウスに放飼しました。

農業改良普及所は、生産者への天敵放飼に向けた農薬使用の注意点の説明や、管轄の農業振興センターを通じて採取可能な生産者を紹介してもらうなど、準備段階から放飼まで支援しました。

生産者からは、「タバコカスミカメを定着させて害虫防除を成功させたい」などやる気に満ちあふれていました。

今後も農業改良普及所では、JAと実証ほの調査を行いながら、成功に向けて支援します。

地域で広がる仲間の輪 ～佐川町生活改善グループが総会を開催～



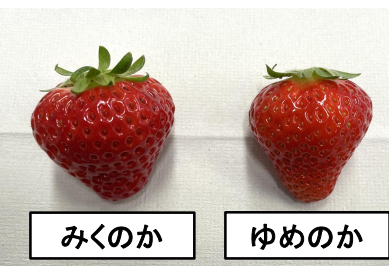
総会前 郷土料理の試作

5月14日、佐川町生活改善グループの総会が「とかの集落活動センターあおぞら」で開催され、グループ員13名が出席しました。

令和8年度の事業計画では、地域の郷土料理の継承と普及に取り組むことが承認されました。今年度は新たに1名のグループ員が加わり、総会の前には郷土料理の試作や、技術習得に向けた活発な情報交換も行われました。普及所は、今回の総会開催に向けた支援や、グループ内における郷土料理の技術継承に関する助言を行いました。

今後も引き続き、生活改善グループの主体的な活動を支援していきます。

高温に負けないイチゴの生産に向けて ～イチゴの品種試験～



果実の比較

昨年11月から、普及所ではJA高知県佐川支所苺部会の生産者のハウスで、慣行品種“ゆめのか”と新品種“みくのか”の品種比較試験を行っています。

“ゆめのか”は近年、高温の影響で花芽分化が遅くなってきているため、花芽分化・収穫期が早い品種特性のある“みくのか”の現地適応性を調査しました。結果、“みくのか”は第一果房の出蕾が早く、初期収量が多い傾向がある事が分かりました。

農家からは「“みくのか”は甘みが強く消費者から人気。引き続き検討したい」といった声が聞かれました。

普及所では今後、調査結果をまとめ、苺部会に共有するなどにより、イチゴの安定生産を支援していきます。